

## 2013年度4月 新入職員122名を迎えて(輝生会入社式より)

今年の東京、桜の開花宣言は例年より早く、眼下に見える新宿中央公園の桜の木はわずかな花びらを残し、ほとんどが地に還っていました。

4月1日、新宿住友ビル47階スカイホールで、医師3名・看護師31名・介護福祉士8名・理学療法士30名・作業療法士25名・言語聴覚士15名・ソーシャルワーカー4名・栄養士5名・サポートスタッフ1名、総勢122名の新入職者を迎え、医療法人社団 輝生会の入社式が執り行われました。新入職者を迎えるスタッフは、石川理事長以下16人の理事と開催運営の本部サポート部スタッフで、採用試験の時とも違った緊張の表情、新しい世界への挑戦に胸を躍らせ、少し照れた笑顔に再会することができました。

人生の中で最初の就職先・勤務地は、専門職としての今後に大いに影響すると、私の経験でそう感じています。つまり、組織の核となる理念や基本方針、先輩スタッフからの指導や教育システム、日常的な学びや研鑽の習慣など、これらについて最も素直に受け止められる新卒の時にプラスの感化を受けることにより、自分自身の中で判断力や標準が身に付き、常識やあたりまえが確立してきます。

専門職はそれを継続する限り生涯、学習を求められます。新しい知識を得、技術を身に付け、常に誠実な態度で対応する。経験を積んでも尚、謙虚さを忘れない、そんなスタッフに成長していただきたいと願っています。患者さま・ご家族に安心と質の高い成果を提供できるよう日々努力してほしい、多くの経験を積んでほしい、成長への過程を貪欲にかつ真摯に経過してほしい…と。

入社式終了後に休憩をはさみ、石川理事長からの講演が恒例となっており、『2013年度新入職員を歓迎して』のテーマで、医療福祉の原点の探索から始まり、世界の医療福祉史からリハビリテーションの歴史、リハビリテーション医療の変遷と課題、さらに輝生会11年間の経緯について様々な



事例を提示して話され、最後に「専門性の向上とチームアプローチが根幹であること」を熱く語られました。毎年、この席で石川理事長の講演を伺っているのですが、今回もまたお話の一つひとつに心躍り、感銘し、改めてその重要性を認識する貴重な機会となりました。

新入職の皆さんは、緊張のあまりすべてを記憶にとどめることは難しかったかもしれませんが、どうでしたか？ 石川理事長の講話を聞いてから、映画「ベンハー」「赤ひげ」を見た人はいますか？「One for All, All for One」が記憶に残りましたか？「回復期を知らずして生活(維持)期を語るなかれ、生活(維持)期を知らずして回復期を語るなかれ」について理解できましたか？ これからの実践の中で、石川理事長の思いを体得してください。元気に日々を送り、学び、研鑽する皆さんの成長が患者さまやそのご家族皆さまのため、ひいては自身のためになると思います。

入院、外来通院、通所、訪問リハ等で医療法人社団輝生会をご利用の皆さま、新年度、新入職スタッフを迎え、法人スタッフ一同、「チーム輝生会」のリハケアサービスの質向上に努力を重ねてまいります。

教育研修局 小林由紀子

### 基本理念と方針

■「人間の尊厳」の保持

■「地域リハビリテーション」の推進

■「情報」の開示

■「主体性・自己決定権」の尊重

■「ノーマライゼーション」の実現

### 患者さまの権利

■ 人権を尊重される権利

■ 最善の医療を受ける権利

■ 自らの意志で選択・決定する権利

■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

■ プライバシーの保護を求める権利

# 高次脳機能障害への理解を深めよう

文／法人総合企画室 高次脳機能障害対策事業担当 森田秋子（言語聴覚士）

## はじめに…

脳出血、脳梗塞、くも膜下出血などの脳血管障害、交通事故などによる頭部外傷、脳炎、脳腫瘍など、脳が損傷を受ける病気や怪我によって、さまざまな症状が生じます。手足の動きが障害される運動障害や感覚が障害される感覚障害が代表的ですが、生活を送る上で大きな問題となるのが「高次脳機能障害」です。高次脳機能障害は、一見外から見ただけではどのような障害がよくわかりません。ご本人にもよく理解できず、また周囲の人々からも正しく理解されないことが多いため、さまざまな場面でご本人、ご家族が苦しい思いをされることが多いのです。

## 高次脳機能障害とは…

話すこと、記憶すること、注意すること、考えること…。脳が行う活動のほとんどが、高次脳機能に含まれます。昨日まで元気だった方が、意味のわからないことを言ったり、人が変わったように怒りっぽくなったり、今まであたりまえにできていたことができなくなったりします。ご本人はもとより、そばにいるご家族にとっても大きなショックであり、絶望的な思いに襲われる方も少なくありません。

ご家族は、「なぜ、こんなことができないの?」「しっかりしてちょうだい」などと、どなってしまうたり、動揺したり悲観的になりやすいのですが、そのような対応は良い対応とは言えません。高次脳機能障害は、症状が複雑でわかりにくく感じますが、いくつかの特徴を知ることによって障害を理解しやすくなり、良い対応方法もとれるようになります。



## 脳は回復する…

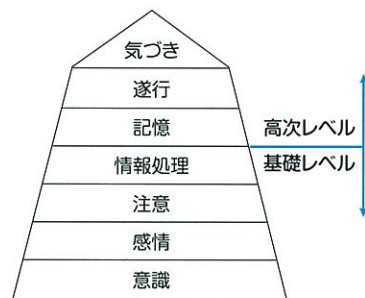
脳細胞は一度死んでしまうと再生しない…と長い間言われてきましたが、最近では損傷を受けた脳の中で、細胞が新たに再生することが報告されています。また障害を受けた脳は、自ら環境に適応しようと変化していく働きがあることが、わかってきました。これは、脳の可塑性と呼ばれており、神経回路の再構築が起きることがわかっています。脳損傷で生じた障害の症状は、ほとんどの場合大きく変化していきます。発症直後は比較的大きな改善が見られ、やがて回復はなだらかになりますが、中には数年から数十年

にわたり長期的な回復を示す例があります。また、初期にはほとんど回復が見られなかったのに、発症からだいぶ経過してから変化が見られることもあります。「もう、ここまで」と思ってしまわずに、「長いおつきあい」になることを受け止めて、少しずつ良くなることを喜びながら、日々を送っていきましょう。

## 高次脳機能障害を階層的にとらえましょう…

高次脳機能の階層モデルが、広く知られるようになりました。図に示した「神経心理ピラミッド」は2006年立神粧子先生により、日本に紹介されました。高次脳機能障害を理解する手がかりになるので、ご紹介したいと思います。

このモデルでは、高次脳機能のもっとも下位に位置するのは「意識」であり、その次が「感情」となっています。この2つは人の脳が機能するための基礎的部分であり、家では土台のコンクリートにあたります。その上に「注意」、「情報処理」があり、ここまですべてが基礎レベルとされています。高次レベルには「記憶」、「遂行」、そしてもっとも高い所に「障害への気づき」が置かれています。



神経心理ピラミッド  
(立神粧子「総合リハビリテーション」2005年4,5月号)一部改訂

## 意識や感情が高次脳機能を支えている…

発症早期には、目は開いているもののぼんやりしていて、意識が十分に回復していない時期が続きます。この時期は十分に考えたり注意を集中させたりすることができません。まずは、頭の中の霧が晴れるように、意識の状態が改善してくることが必要なのです。意識が良くなるとそのまま回復する場合もありますが、イライラしたり衝動的に行動したり、あるいはやる気が出ないなど、感情や意欲の障害が現れることがあります。まるで子供に戻ってしまったような様子となり、ご家族の心配は高まります。こうした状況が高じ、ご本人とご家族の関係が崩れ、在宅生活の継続が困難になってしまうこともあります。

感情障害は、多くの場合症状が軽くなったり、消失していきます。少しずつ、我慢ができるようになっていくので、

そのことに目を向けていきましょう。感情障害が全面に表れているうちは、理屈を言ったり、叱りつけるなどの対応は、効果的でないだけでなく、症状を強めてしまう可能性があります。本人の意向を尊重し、協調的に対応しながら、気をそらすように誘導することも必要です。



## 「注意」にも階層性がある…

意識や感情などの脳の基礎的な状態が整ってくると、注意の障害が目立ってくる場合があります。人の持つ注意機能はとてもレベルが高く、脳を損傷された人は誰もが「注意障害」を生じます。問題は、その程度や質ということになります。

注意にも階層性があると言われています。まず基礎的な機能として、必要なものに注意を向ける「注意の選択」、向けた注意を持続させる「注意の持続」があり、高次の注意機能として、多方向に注意を向けたり切り替えたりする「注意の転換・配分」「注意の制御」があります。

注意は、すべての活動に影響を与えます。あわてて食べてむせてしまったり、確認が足りずに転倒してしまったり、会話をしているも話があちこちが変わって、何を言いたいかわかりにくかったりします。テンポを少しゆっくりにするような働きかけが有効なことがあります。わかりやすく目印をつけたり、必要なものだけをを用意しておくなどの工夫も有効です。疲労や体調不良が影響するので、体調管理をしっかり行うことも大切です。



注意機能の階層性

## 記憶の低下を助けるもの…

脳損傷が起きた直後は、しばしば記憶力が低下します。記憶には、昔の記憶である「遠隔記憶」と、数時間から数週間の最近の記憶である「近時記憶」があります。発症直後にはどちらもあいまいになりますが、特に近時記憶の障害が目立つことが多いようです。こうした状態は、徐々に改善していきます。一方、損傷された部位などにより、記憶障害が持続する場合があります。重度の場合には、少し前のことも思い出せなくなります。自分に記憶障害があることに気づける場合は、メモや手帳などの代償手段を使う



ことによって、記憶障害を補うことができます。障害を認識できず、こうした方法が使えない場合もあります。その場合は本人の気持ちを大切に、少しでも快適に過ごせる環境を整え、本人ができることを1つでも2つでもやるようにしましょう。記憶はできなくても、自分の状況が快適か不快かを判断できることが多く、快適な状況を増やしていくことで能力が引き出されやすくなります。

## 判断力と障害への気づき…

高次脳機能障害のある方にとってもっとも深刻な問題は、適切な状況判断ができなくなることであり、自分の状態を認識できなくなることです。

状況判断には、自分の能力を理解し、1人で立ち上がったまま転倒することがないかを考えられるなどの危険を察知できる判断、社会的ルールを守ることや周囲の人々との良好な関係を築くことができるなどの、対人・対社会に関わる判断、などがあります。こうした判断がうまくできなくなってしまうことがあり、そのことで事故が起きたりトラブルが発生します。

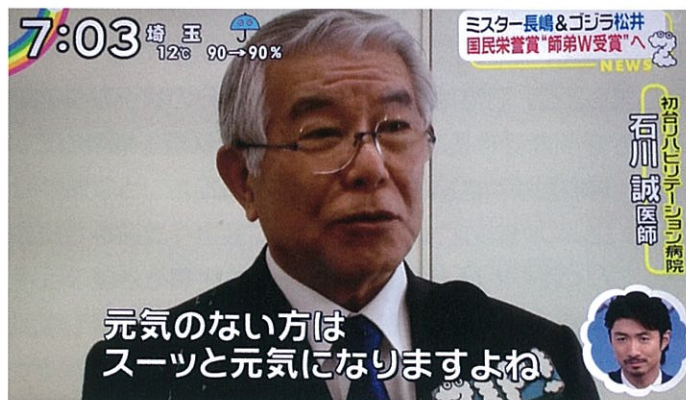
家庭や社会で生活をしていく中で、徐々に自分の障害に対する理解が深まっていくことも、多くみられます。焦らずに本人が気づくのを待つことは、とても大切です。同時に、上手に気づききっかけを作ったり、何か感じているときにはその気づきを援助して、障害に向き合っていくことができるようにしていくことも重要です。

## 障害があっても、1人1人輝いている…

高次脳機能障害のある方には、少しでもご本人ができることを行える環境を整え、毎日同じスケジュールで、安定した活動を行っていくように援助しましょう。できなくなったことを考えるのではなく、1つずつできるようになったことを数えましょう。障害があっても、その方らしさが光る瞬間があります。それを見つけ出し、大切にしていきましょう。リハビリテーションの形は、急性期、回復期、生活期、と少しずつ姿を変えていきます。また、1人1人にやるべきこと、必要なことが異なります。大切なことは「自分でできることは自分でやろう」と思う気持ちをはぐくむこと、そしてご家族を含め「障害があっても元気で生き生きとした生活を送ること」なのだと思います。



## 国民栄誉賞“師弟W受賞”報道の翌日に 石川 誠 理事長がメッセージを



4月1日、スーパースター 長嶋茂雄終身名誉監督と、日米の野球界で輝かしい成績を残されたスーパースター 松井秀喜さんの国民栄誉賞“師弟W受賞”の報道!!

日本中が受賞の歓喜で沸いた日のその翌日、初台リハビリテーション病院 理事長の石川 誠が、お祝いのメッセージを日本テレビ「ZIP!」にてインタビューを受け放送されました。 ※写真は放映のワンカットです

## 毎月1回、季節に合った行事を… 4月は「さくらもち作り」にチャレンジ

在宅リハビリテーションセンター成城では毎月1回、その季節に合った行事の一環として、入院患者さまを中心とした病棟レクリエーションを実施しております。

病棟レクリエーションの時間は、準備～実施まで患者さまが主体となっていて活動に参加していただけるよう、病棟スタッフは陰でお手伝いしております。

毎回、男女問わず参加していただき、皆さんで協力しながら楽しんでいただいております。



## 船橋市立リハ病院に待望の院内保育所 「輝kids」が開設されました



船橋市立リハビリテーション病院では院内保育所の開設準備を行っていましたが、4月15日に待望のオープン! 早速7名の子供達が元気に利用を開始しました。保育所の名前は職員から公募を行い「輝kids(かがやきっす)」に決定。

輝生会の一文字をとり、輝いてすくすく育ちますように…という願いを込めています。職員の働きやすい環境づくりのため、保育士さん達と一緒に魅力ある保育所をつくっていきますので、暖かい目で見守ってくだされば幸いです。

## 在宅総合ケアセンター元浅草では 地域性を活かして一般診療も行っています



在宅総合ケアセンター元浅草では、今年の2月には「利用者さまの作品展覧会」、4月には「お花見会」などセンター内外でのイベントも多彩に行いました。

当センターは江戸っ子の町、台東区に位置しており、近隣はオフィスが立ち並びサラリーマンも多くいることから、一般診療を行なっております。

リハビリというイメージだけでなく、今以上に一般診療へ力を注ぎたいと考えています。

季刊情報誌「輝net」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3

初台リハビリテーション病院

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3

TEL.03-5365-8500

<http://www.kiseikai-reha.com>

船橋市立リハビリテーション病院

〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1

TEL.047-439-1200

<http://www.hatsudai-reha.or.jp>

在宅総合ケアセンター元浅草

〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17

TEL.03-5828-8031

<http://www.funabashi-reha.com>

在宅リハビリテーションセンター成城

〒157-0072 東京都世田谷区祖師ヶ谷3-8-7

TEL.03-5429-2292

<http://motoasakusa-reha.com>

<http://seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 [info@hatsudai-reha.or.jp](mailto:info@hatsudai-reha.or.jp)